

企画概要

がん医療における継続したがん看護の充実

Part I : 継続ケア（入院・外来・在宅）の現状とがん看護の課題

Part II : 継続ケア（入院・外来・在宅）の充実を図る施策への提言

過去 2 年間の国際がん看護セミナーにおいては、外来がん看護のあり方について討論してきた。外来がん看護の提供方法、取り組みについては、イギリス、アメリカ、カナダの実践報告から多くを学び、また、日本においても、できることからの実践が始まっていることを確認し合った。

外来でがん看護を提供するためには、病棟からどのように外来にケアが継続できるように繋げていくかということが課題になる。各病院には、退院調整看護師が配置され、地域連携への促進の役割を担っている。継続してケアを提供するためには、看護サマリーも書いているが、確実に引き継がれているのか、引き受ける立場として、分かりやすく使えるサマリーになっているのか、また、その他の病棟と外来をつなぐ方法（窓口となる人、書類など）は、どのようなになっているのかなど、必ずしも明確でない。ケアが繋がる要所要所に焦点を当て、がん患者にとって必要なケアが、適切に引き継がれ受けられているかどうかを明らかにする必要がある。

平成 23 年度のセミナーでは、ケアの繋ぎ目に焦点を当てて各セッションで現状を洗い出し、病棟から外来に連携するためにどのような方法がとられているか、継続ケアの現状と課題を討議し、全体討論で課題が何かを明らかにしてパート II（平成 24 年度）に繋げる。

プログラム

第 1 日目 1 月 27 日 (金)

開会の辞 9:30 ~ 9:35

国際がん看護セミナー委員会委員長挨拶 9:35 ~ 9:45

佐藤 禮子 (兵庫医療大学 副学長)

基調講演 9:45 ~ 10:50

継続したがん医療・看護に関わる国策の概要

講師 門田 守人 (厚生労働省)

がん対策推進協議会会長)

座長 佐藤 禮子 (兵庫医療大学 副学長)

がんの医療政策として平成 18 年 6 月にがん対策基本法が制定され、平成 19 年 4 月 1 日から施行され 6 年目になっている。がん診療連携拠点病院を中心にした各医療機関や医療者の連携を密にして、質の高い治療・ケアを提供することが求められている。

がん診療連携拠点病院は、指定要件を求められ施設の整備をしてきているが、それぞれの医療機関、医療者間のつながりの部分における連携はどのように考えられ実質化が図られているのか必ずしも明確でない。

基調講演は、がん対策推進基本計画の策定から推進そして現在に至る経過可能な限り評価も含めて概説する。本講演は、今回のセミナー参加者が本テーマについて共通認識のもと、討論し、問題解決の方策を見出すための基調講演とすることを目的とする。

セッション1

日本におけるケアの繋ぎ・連携は誰がどのように行っているか

10:50~12:20

座長 濱口 恵子 (がん研有明病院 副看護部長・がん看護専門看護師)

入院→外来→在宅→入院と患者の治療、生活の場が変わる時に、関わっている看護師はケアの繋ぎをどのように行っているのかということの詳細を述べていただく。

病棟看護師の実践

村瀬 麻樹子 (国立がん研究センター中央病院 副看護師長)

外来看護師の実践

児玉 美由紀 (北里大学病院 がん看護専門看護師)

訪問看護師の実践

荒巻 初子 (訪問看護ステーション「くるめ」所長)

退院調整看護師の実践

三輪 恭子 (淀川キリスト教病院 地域看護専門看護師)

ランチタイム 12:20 ~ 13:40

セッション1 ディスカッション

13:40 ~14:00

セッション2

海外におけるケアの繋ぎ・連携はどのように行われているか

14:00 ~17:00

座長 丸口 ミサエ (国立がん研究センター中央病院 看護部長)

それぞれの国における状況・方法について下記のことを話していただく

- 1) 各国の医療制度を簡単に説明していただく。
- 2) 外来受診から入院、退院、退院後の治療の場（通院、または、紹介元の医師の診療所・病院、訪問看護師との連携）への流れはどのようになっているのか。
- 3) 治療の場が代わる時に、看護師は、次に関わる医療者に、どのような方法で、何を使って、どのような内容を伝えているか。
ツールがあれば、それを具体的に紹介していただく。
- 4) 連絡を受ける側は、送られた情報を、誰が、いつ、どのように活用しているのか。また、返信はどのようにされているのか。
- 5) 患者の継続ケアにおいて問題になることはないか。
患者の継続ケアがスムーズに引き継がれているとしたら、その要因は何か。

イギリスの場合 Anna-Marie Stevens

(RN.MSc, Macmillan Nurse Consultant
The Royal Marsden and Royal Brompton Palliative
Care Service The Royal Marsden NHS Foundation
Trust, United Kingdom)

カナダの場合 Elizabeth Beddard-Huber,

(RN, MSN Advanced Practice Nurse
Pain and Symptom Management/Palliative Care
British Columbia Cancer Agency, Vancouver,
Canada)

アメリカの場合 Angela Adjetey,
(RN,MSN,MPH,MA,FAACM
Clinical Nurse Specialist
Memorial Sloan-Kettering Cancer Center)

(休 憩)

ディスカッション

第2日目 1月28日(土)

セッション3

ケアを繋ぎ、連携する上での課題は何か 9:30~11:20

座長 千崎 美登子 (北里大学病院 看護師長・がん看護専門看護師)

実際に行っていることで、不十分なところ、問題が生じていることについて明らかにする。病棟看護師・外来看護師・外来で診療している医師から、在宅ケアをおこなっている訪問看護師の立場で、具体的にどの場面で、どのような問題が生じているか、それぞれの立場において課題を明らかにしていただく。

病棟看護師の立場から

花出 正美 (がん研有明病院 看護師長・がん看護専門看護師)

外来看護師の立場から

長谷川 久巳 (国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
管理看護師長・がん看護専門看護師)

医師の立場から

木澤 義之 (筑波大学人間総合科学研究科、講師・
筑波大学附属病院緩和ケアセンター)

訪問看護師の立場から

角田 直枝 (茨城県立中央病院 看護局長)

ディスカッション

ランチタイム	(11:20 ~ 13:00)
--------	-----------------

総合討論

パートⅠからパートⅡへ引き継ぐ課題は何か 13:00～15:00

座長 田村 やよひ (国立看護大学校 学校長)
佐藤 まゆみ (千葉県立保健医療大学 教授)

今回のセミナーで課題とし、明らかになったこと
その課題となっていることの要因はどこにあるのか
適切に継続ケアに取り組んでいる要因は何か
演者と参加者で討論する

閉会の辞

15:00